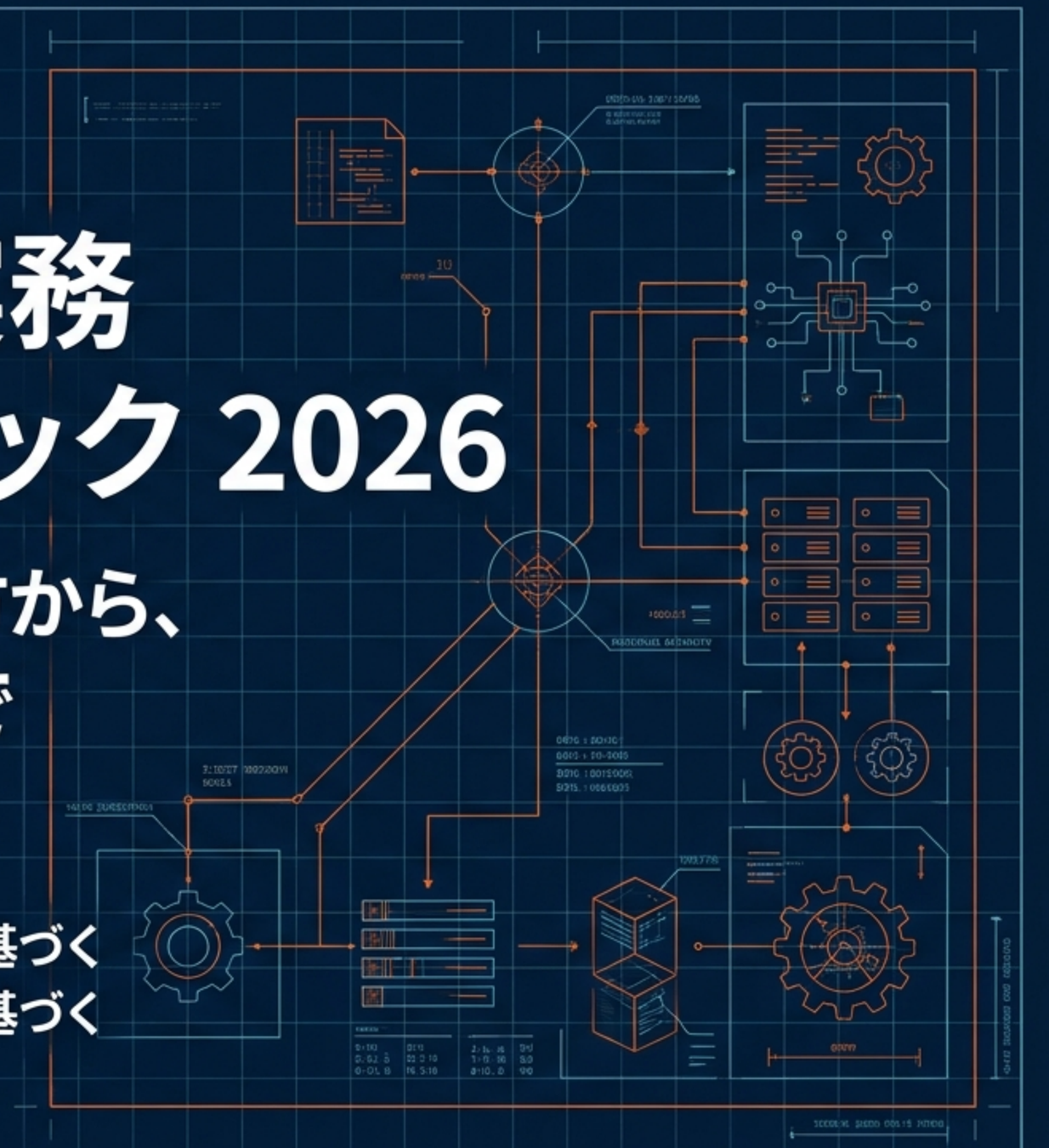
STRATEGIC PLAYBOOK 2026

国産LLM×知財実務 戦略導入プレイブック 2026

実績と性能の正しい読み解き方から、セキュリティ設計・ROI算出まで



期待とバズワードを排し、厳密な論理と証拠に基づく
期待とバズワードを排し、厳密な論理と証拠に基づく
AI実装の現在地を定義する

Gemini Notebook

なぜ知財領域における AI導入は難航するのか？

44.4%

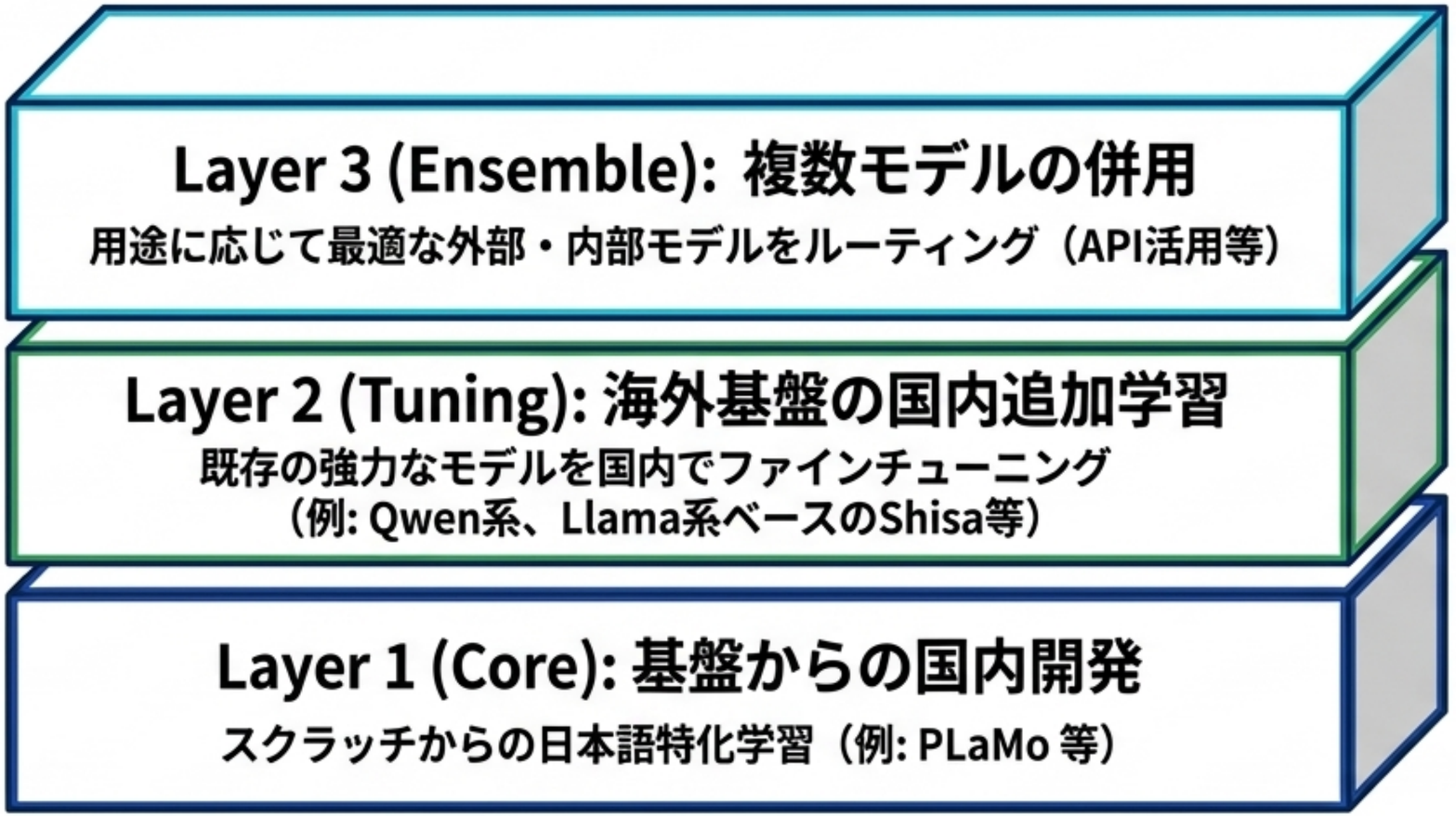
精度への不安

2026年秋の知財セミナー回答（538件）において、知財AI活用における最大の障壁は『精度への不安』に集中している。[12]

- 実案件での採用モデルや、重要特許の「見落とし率」まで開示する事例は極めて限定的です。
- 本ドキュメントは、単なるAI導入論を排し、「どこまで実務に入ったか」、「指標の罠」「セキュリティ設計」を解き明かすためのものです。
- 知財プロフェッショナルのための、冷徹な現実評価と実践的的フレームワークを提供します。

Gemini Notebook

「国産LLM」の定義スペクトラム：3つのレイヤーを区別する



- ☐ 提供会社
- ☐ 推論サーバー所在地
- ☐ 学習・調整主体

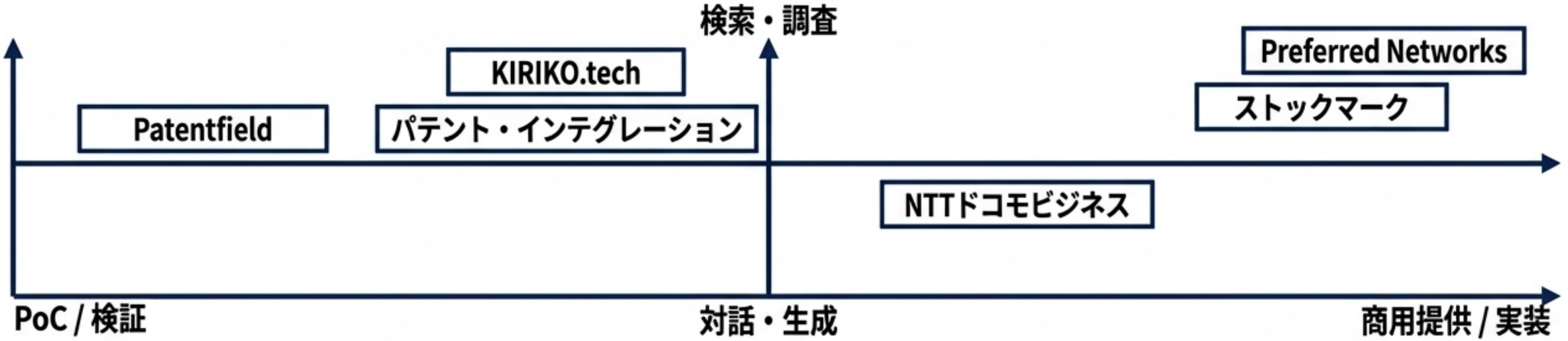
- ☐ 提供会社
- ☑ 推論サーバー所在地
- ☑ 学習・調整主体

- ☑ 提供会社
- ☑ 推論サーバー所在地
- ☑ 学習・調整主体

「製品の提供会社」「推論サーバーの所在地」「学習・調整の主体」はそれぞれ独立した変数であり、機密情報を扱う知財実務ではこれらを明確に切り分けて評価する必要がある。

Gemini Notebook

知財AI実装ランドスケープ 2026：主要プレイヤーと現在地



プレイヤー	実装詳細
NTTドコモビジネス	「tsuzumi 2」展示。キヤノン開発部門にてアイデアシート作成等のパイロット利用開始(2026/7発売）。
パテント・インテグレーション	GENIAC-PRIZEにてPLaMo, Claude, GPTを利用基盤として明記（サマリア Agent β版）。
Patentfield	Qwen3系 + llm-jp-modernbertを使用。外部APIを使わず動作し、対比表作成に強み。
KIRIKO.tech	Llama 3.3ベースの「Shisa-v2-70B」にベクトル検索を接続。先行技術調査と理由案作成。
ストックマーク	Qwen2.5-7B系追加学習モデルをAconnectへ実装。高精度な図表読解、欧州特許対応。
Preferred Networks	PLaMo 3.1 Primeを提供開始。オンプレミス環境での出典付き調査（閉域調査）に対応。

Gemini Notebook

評価指標の解像度：「段落の再現」と「特許の発見」のギャップ



マーケティング数値に踊らされず、「評価の単位」が何に設定されているか（段落単位か、文献単位か、ビジネスリスク単位か）を常に見極める必要がある。

Gemini Notebook

現在地のリアル：サポート要件充足の正答率への壁

指標: JAPAS（日本語特許サポート要件抽出ベンチマーク）

測定基準: 請求項の記載と根拠段落との対応



モデル: Qwen3-14B（追加学習後）

対象: 11文献

キーインサイト

評価データを国内で整備する意義は大きいが、F1値0.50という結果は、現時点で「法的なサポート要件充足の完全な正答」へそのまま換算できる水準には至っていない（精度の限界）ことを示している。

Gemini Notebook

周辺領域の実績をどう読むか：実装と評価のズレ

特許分類・意匠

（特許庁 GAIA-Index）

事実（Fact）:
2026年4月からJ-PlatPat上で一部テーマ検索に使用、先行意匠調査で画像検索活用。

解釈の注意点 (Caution):
国産の生成LLMの採用は現時点で確認できない。

特許翻訳

（特許庁調査事業）

事実（Fact）:
Gemini, Claude, Gemmaと従来のニューラル機械翻訳（NMT）を比較実証。

解釈の注意点 (Caution):
国内での実証＝「国産モデルの性能実績」ではない。評価対象モデルの正確な把握が必要。

知財契約

（LegalOn 導入事例）

事実（Fact）:
日本ゼオン知財部門で年間約1,000件のNDA・共同研究契約等で利用。

解釈の注意点 (Caution):
「1,000件」は部署の取扱総数であり、国産LLMが自律処理した件数を表すものではない。専門家判定との一致率を示した事例は未確認。

Gemini Notebook

知財業務別 AI導入・評価マトリクス

対象業務	AIに任せる範囲 (スコープ)	導入時に測るべきKPI (評価指標)
① 発明発掘・提案書	課題/手段/効果の抽出、不足情報の質問、着想とAI仮説の区別記録。	総時間、裏付けのない効果の追記件数、発明者の修正内容。
② 新着特許監視 (SDI)	新着分類、関連候補と根拠段落の提示。	専門家が重要とした案件の再現率、誤除外数、月間確認工数。
③ 先行技術調査・ IPランドスケープ	検索式/同義語/分類の提案、技術/用途別の候補整理。	既知文献の再現率（同一条件）、名寄せ・ファミリー重複、根拠の正確性。
④ 明細書・中間対応	請求項と記載根拠のペアリング、引用文献段落の対応付与。	数値/単位/否定条件の脱落、当初記載にない限定提案、弁理士の修正時間。
⑤ 侵害予防調査 (FTO)	対象国/製品別の有効請求項候補の抽出、製品要素との対比表案作成。	重要権利の見落とし、国/権利状態の取り違え、製品仕様と根拠の対応。

Gemini Notebook

協働の境界線：AIによる「候補抽出」と専門家による「最終判断」

境界線（The Boundary）

Step 1: Data Input（人間）

- 過去案件の入力
- 製品仕様の入力

Step 2: Processing & Extraction (AI)

- 対象国・製品別の有効請求項の候補抽出
- 対比表の「原案」作成
- 根拠段落のマッピング

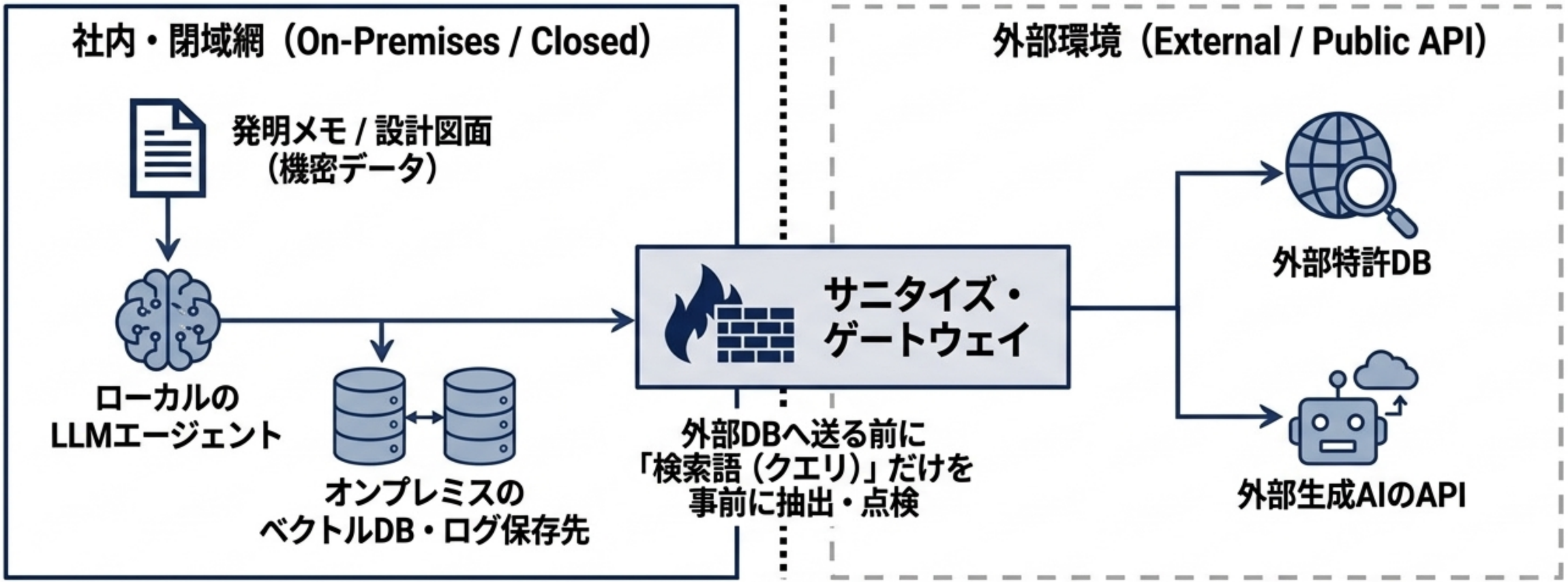
Step 3: Critical Review & Final Call（専門家）

- 抽出されたデータの法的な妥当性検証
- 侵害有無の最終判断
- サポート要件充足の確認

特にFTO（侵害予防調査）や明細書作成において、AIは決して「結論」を出さない。
AIは判断の材料（ハンガー）を揃えるところまでを担い、最終的な法的判断とリスクテイクは専門家（弁理士・知財部員）が行うようプロセスを設計する。

Gemini Notebook

知財データ・セキュリティ・アーキテクチャ設計



セキュリティ・チェックリスト

- ☑ エージェントが生成する「外部検索語」に機密が含まれていないか？
- ☑ 検索先、ログ、ベクトルDBの保存先はどこか？誰が閲覧できるか？
- ☑ 入力データ (プロンプト) の再学習利用オプトアウトは確実か？（Preferred Networksの閉域調査などを活用する選択肢）

Gemini Notebook

真のROI算出方程式：A/Bテストによる効果測定

過去の同一案件を用いたA/Bテスト検証



［従来手法のコスト］ VS **｛AI導入時の総費用｝**

＝（初期作業時間＋レビュー時間）× 専門家人件費

｛AI総費用（推論料＋GPU＋DB利用＋更新/保守）｝＋｛専門家レビュー・修正工数 × 人件費｝

「短縮率」という曖昧な数字に騙されてはならない。重要案件の見落とし率や、AIのハルシネーション（原文と一致しない根拠）を修正する「専門家の手戻り工数」を含めて比較検証しなければ、知財AIの真のROIは測れない。

Gemini Notebook

結論：知財AI導入における唯一の成功法則

真のROIは「作業の効率化」だけでは測れない。
「セキュアな環境下での、専門家の基準に対する精度」（適合率と見落としの無さ）を
業務ごとに精緻に定義できた企業だけが、
知財AIの恩恵を安全に享受できる。

期待先行のフェーズは終わった。2026年以降、知財部門に求められるのは、AIの技術的進化を盲信することではなく、
自社のプロセスに合わせた「厳格な評価単位」と「専門家を組み込んだ安全な設計図（Blueprint)」を描く能力である。

Gemini Notebook

Next Action: 自社導入に向けた最初の3ステップ

01

評価基準の再定義

検討中のAIツールの「精度」が、段落単位の再現率か、ビジネス上の特許発見率かを確認する。

02

過去案件によるA/Bテスト

完了済みの案件に対し、従来手法、国産モデル、許諾済み海外モデルに同一の資料とと検索条件を与え、「修正後の作業時間」と「見落とし」を比較する。

03

セキュリティ境界の設計

発明メモから生成される検索クエリの挙動を確認し、オンプレミス（閉域網）と外部APIの境界線を自社ポリシーに沿って引く。

本ドキュメントが、貴社の高度な知財戦略における確かな「設計図」となることを願って。
Strategic P

Gemini Notebook